

平成 28 年度 傾斜的研究費（全学分） 研究報告書

【研究代表者所属】：産業技術大学院大学創造技術専攻

【研究代表者氏名】：前田充浩

【研究代表者氏名フリガナ】：マエダミツヒロ

【研究代表者職】：産業技術大学院大学教授

【国内研究分担者（所属、氏名、職）】

【国外研究分担者（所属、氏名、職）】

- ・ SADC-dfrc（南部アフリカ開発共同体開発銀行協会）、福永哲也、JICA アドバイザー
- ・ Office of the Council of Ministers, the Government of Cambodia、Yea Bunna、General Director
- ・ Hanoi University of Business and Technology（HUBT）、Dr. Hieu Nguyen Trong、Professor

【研究課題名】：産業コミュニティ醸成措置に関する海外の大学等との共同研究

【研究実績の概要（600～800 字程度で記入。図、グラフ等の使用も可。）】

・ 発展途上国が効率的に経済社会開発を推進するためには有効な発展戦略を構築することが不可欠であり、その発展戦略の核の 1 つが産業コミュニティ醸成である。本研究は、最先端の社会科学の成果を導入し、各国の専門家との共同研究を通じて、各国の実情に応じた新しい産業コミュニティ醸成措置を取りまとめ、提案を行うものである。

・ 立脚する社会科学上の第 1 の手法は、情報社会学局面遷移論であり、第 2 次産業革命第 2 局面の高度化、第 2 次産業革命第 3 局面の推進、第 3 次産業革命の開始の 3 つの課題に応じた産業コミュニティ醸成措置を検討する。第 2 の手法は、アセンブリー系製造業に関する「グローバル生産ネットワーク」分析である。21 世紀の東／東南アジアにおいては、ファースト・アンバンドリング（生産と消費の分離。多国籍企業化。）を超えて、セカンド・アンバンドリング（機能ユニットの企業体からの分離。）が進展しており、それに適した産業コミュニティ醸成措置を検討することが必要である。

・ 本年度においては、従来研究を進めてきた東／東南アジアの製造業に関する産業コミュニティ醸成措置に加え、以下の新たな分野の研究を推進した。第 1 は、南部アフリカ地域における開発金融イニシアティブの発展戦略である。8 月の TICAD セミナー（ナイロビ）において基本的な構想についての擦り合わせを行い、11 月には SADC-dfrc において先方研究者との共同研究を行った。第 2 は、東／東南アジアにおける IT 産業後発国に対する新たな IT 産業振興策の提示である。グローバル・ソーシングのモデルに立脚し、カンボジア、ベトナム、インドネシア西ジャワ州に関する構想を取りまとめ、それぞれ現地で先方研究者との共同研究を行った。第 3 は、東／東南アジアにおける第 2 次産業革命第 3 局面及び第 3 次産業革命に対応した NIS（National Innovation System：国家開発計画）を検討し、ベトナム及びインドネシアにおいてそれぞれ先方研究者との共同研究を行った。

【学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）】

- ・ Advancement of the Developmental Strategy in tackling the Middle Income Traps in Vietnam
- the methodology based on the Reflexive Modernity theory of Info-socionomics、ハノイ経営工科大学経済発展セミナー（ハノイ）、2017 年 3 月。
- ・ Advancement of the Developmental Strategy in tackling the Middle Income Traps in Indonesia
- the methodology based on the Reflexive Modernity theory of Info-socionomics、ダルマプルサダ大学

=AIIT 共催経済発展セミナー（ジャカルタ）、2017年3月。

- ・ The Role of SMEs in Development of Bandung Area
- the methodology based on the Global Production Network Analysis (GPNA) and 4 proposals、バンドン工科大学中小企業発展セミナー（バンドン）、2017年3月。
- ・ 情報社会学局面遷移論のアジアへの適用可能性、情報社会学会月例研究会（東京）、2017年2月。
- ・ 情報社会学局面遷移論の新モデル、情報社会学会月例研究会（東京）、2017年1月。
- ・ HANOI WORKSHOP: INNOVATION SOLUTION FOR THE DEVELOPMENT OF INDUSTRIAL ENTERPRISE COMMUNITY、ハノイ青年会議所とハノイ・サポーティング産業協会共催セミナー（ハノイ）、2016年12月。
- ・ The Global Production Network Analysis、東ヴィサヤ州立大学経済復興セミナー（タクロバン、フィリピン）、2016年10月。
- ・ A Stage Sequence Analysis of the Dual Globalization Mechanism in the Modern World System、情報社会学会年次合宿（箱根）、2016年9月。
- ・ An ‘ Industrial Community Building ‘ Approach
- a Japanese Experience of Community Type MSMEs Finance、TICAD（アフリカ開発会議）セミナー（ナイロビ）、2016年8月。
- ・ The Dual Globalization Mechanism、情報社会学会月例研究会（東京）、2016年8月。
- ・ The Catch-up Creativity、情報社会学会月例研究会（東京）、2016年6月。
- ・ 世界システム論「成熟－突破」論再考、情報社会学会月例研究会（東京）、2016年5月。

【論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）】

- ・ 『「大収斂」近代世界システム論試論－発展途上国の発展戦略構築における「追い付き創造性」』、前田充浩、産業技術大学院大学紀要第10号、2017年1月。

【作品等】

- ・ (特になし)

【科学研究費補助金への応募状況、採択状況】

- ・ (特になし)

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

- ・ (特になし)

【受賞等】

- ・ 2016年11月3日、世界開発銀行総裁会合（ハボロネ）主催者挨拶において、H.E. Patrick Dlamini 南部アフリカ開発銀行総裁より当該研究を評価するコメント。
- ・ 2017年3月28日にカンボジア総理官邸において H.E. Son Koun Thor 首相府大臣と会談実施。

【その他社会貢献】

【公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等】

- ・ (特になし)

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

（工業所有権の名称、発明者、権利者、工業所有権の種類・番号、出願年月日、取得年月日）

- ・ (特になし)

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名、所属、金額 (円))

・ (前田充浩、産業技術大学院大学、600 千円)